



須留が峰

令和5年度
No.29

HPアドレス <http://yabuboard.ed.jp/yabu-jhs/>



令和6年3月22日 発行



私という名のドラマ

3月8日(金)に3年生73名を見送り、以後、1・2年生100名での生活が続いています。そして今日22日(金)、令和5年度の修了式を迎えました。

1年生は、入学したての頃のあの何ともいえないあどけなさが随分と薄れ、この3学期には、様々な活動場面でシャープな表情や動きが見られるようになってきました。この1年間で背も高くなり、私を越えようとしています。2年生は、部活動や生徒会活動を3年生から譲り受けて、すでに養父中の軸として活動しているせいか、急に肩幅に広さを感じるようになりました。がっしりとしてきたというか、そんな感じ。きっとこの春休みを経て進級した4月には、それが「安定感」として感じられるようになるのでしょうか。そういえば、来年度の生徒会のスローガン(案)もおよそ形になってきているとか。まだ教えてはくれませんが、とても楽しみにしています。

最近、なぜか **Snow Man** の曲を聴くようになり、中でも「**僕という名のドラマ**」という曲をよく聴きます。落ち着きのあるしっとりした曲でありながら、少しキラキラ感も見え隠れするステキな曲です。この歌の中に、次のような歌詞があります。私がこの曲を選んで聴こうとするのは、この歌詞に生徒たちの成長ぶりを重ねてしまうせいかもしれません。

この歌詞のとおり、4月の頃の自分など、もう遠い存在だと思います。それほどに今の自分は、様々な経験を通じて気持ちも体も大きくなっていることでしょう。活動する中で、喜びやうれしさ、楽しさもあったことでしょう。逆に、悩んだり、悔しくて泣いてしまったり、くじけそうになって弱い自分を見つめたりしたこともあったでしょう。

でも、この1年間、いろいろなことがあって今の自分がいます。そして、何度でも立ち上がってきた自分が、今ここにいます。

人が生活していく上で、決して楽なこと、都合のよいこと、いいことばかりが起こるわけではありません。何とかしないといけない、踏ん張らないといけない場面も当然あります。その大きさは人それぞれです。今日、修了式。あの遠い遠い4月の自分を思い起こし、今の自分について、「まあ、いろいろあったけど、ようがんばってきたな」と自分を讃える日にしてほしいと思います。しかも笑顔で。

Snow Man 「僕という名のドラマ」

歌詞の一部抜粋

この歌の中には、こんな歌詞もあります。「未来が 都合のいいドラマのようにはいかないことは知っているけど 演じてみせるさ 主人公なりに」。

「自分は自分の主人公」ではあるけれど、それでも君たちの周りには必ず仲間や先生たち、家族の方々がいて支えてくれます。だから、必ず乗り越えていけるはずです。そう信じています。

来年度もまた、みんな1人1人の「私という名のドラマ」を創り上げていくために、どんどん「欲張って」活動し、「養父中パワー」をさらに高めていきましょう！



Topics



3月21日(木)の朝。あたり一面、真っ白になっていました。



テニスコートの整備工事が完了！ 気持ちもボールも弾み方が違うかな？



3月19日(火)、2年生の球技大会。種目はなんと！ソフトボールです。グラウンドいっぱいに、春にぴったりの歓声が響き渡っていました。

<但馬中学校書き初め大会 入賞>

2年	入選
2年	入選
2年	佳作
2年	佳作
1年	入選
1年	入選
1年	佳作
1年	佳作

* 3年生については別途表彰済みです。



本校が、これまで人権作文の取組を通して、人権啓発を積み重ねてきたことに法務省から表彰を受けました。

令和5年度が終わろうとしています。5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、少しずつコロナ禍前の生活に戻り始め、今ではマスクをすることも少なくなっています。

本校の教育活動についても、コロナ禍で工夫してきた取組を活かしながら、生徒たちとともにより効果的にねらいに迫っていきこうと、脱コロナ禍での活動の在り方を模索してきました。保護者の皆様には、こうした教育活動の展開にご理解とご支援いただきましたことに厚くお礼申しあげます。お陰をもちまして、年間を通して、生徒たちが仲間とともに知恵と力を合わせて生き生きと活躍する場面や達成感あふれる表情を数多く見ることができました。

生徒1人1人のこの1年間の大きな成長を実感しつつ、また来年度も、生徒たちのよりよき学びと成長のために力を尽くす養父中学校でありたいと思っています。来年度も、引き続きお力添えをいただきますよう、よろしくお願い申しあげます。

令和5年度 教職員一同

<最終号に寄せて>

学校だよりも今号で最終号。30号には至らず、29号での最終号になりました。ちょっと惜しい気もしますが、「29」は「福」とも読めます。次年度に「福」を送りながら、最終号を締めくくりたいと思います。今年度もご愛読いただき、ありがとうございました。

「ABC + DE」はすべてのベース